参考となる成果整理表

摘らい・摘花に重点を置く早期着果管理により核障害を助長させずに大玉「あかつき」が生産できる

福島県農業総合センター　果樹研究所　栽培科

1　部門名

果樹－モモ－栽培

2　担当者名

安達義輝、三田村諭、遠藤敦史、南春菜、渡邊善仁、増子俊明

3　要旨

モモ「あかつき」の核障害は、高品質果実の安定生産にとって大きな阻害要因である。そこで、硬核期前に集中する摘果作業の分散による省力化と核障害の軽減効果をねらい、摘らいや摘花作業を組み合わせた早期着果管理技術を検討した。本技術は、初期生育を促し樹勢向上させるとともに、核障害を助長すること無く大玉果実生産が可能である。

（1）摘らいや摘花は、葉と花のコントラストにより視認性が良く、見落としが少ない。
（2）貯蔵養分ロスが少ないため、生育初期の葉色が濃く同化能力が高まり、その後の新梢伸長や展葉が旺盛になるとともに、果実肥大が促される（図１）。
（3）硬核期以降における核縫合面割裂障害の発生に差は認められない（図２）。

表１　早期着果管理の方法

	【摘らい程度】				【着果管理体系】（試験を実施した日）			
	長果枝	中果枝	短果枝	極短果枝	摘らい・摘花	予備摘果	仕上摘果	修正摘果
早期管理	**15 ㎝間隔**	**1～2**	**1**	**0**	**落花期まで見直し**	**29 日※**		**78 日※**
慣行	5 ㎝間隔	3～4	2	0	発芽前	19～20 日※	40 日※	78 日※

※結果枝当たりの花芽数　　※満開後日数

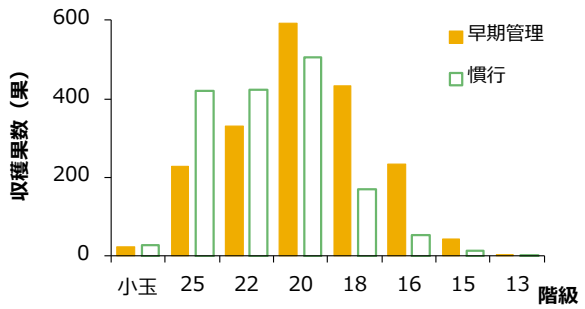

図１　早期着果管理が収穫果の大きさに与える効果

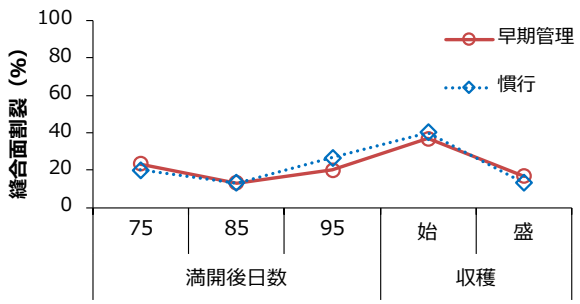

図２　早期着果管理が核縫合面割裂障害に与える影響

4　成果を得た課題名

（1）研究期間　平成 27 年度～令和 2 年度
（2）研究課題名　果樹の省力・高品質生産技術体系の確立

5　主な参考文献・資料

（1）安達ら,「モモ『あかつき』の核障害多発要因」（平成 30 年度普及に移しうる成果）